



はい。ごほうび。

10月2日
Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

10月2日のおはなし「はい。ごほうび。」

ようきなすったな。まあまあ上がりなさい。遠かったろう。よくわかったな。道には迷いなさらなんだか。そうかいそうかい。直接ポンときなすったか。はあ、そういうもんかねえ。こんな人知れずひっそりしたところでもかい？ はあ、関係なくポンと。そうかいそうかい。

でもまあせっかく来てもらったから何かこうお礼に……ちょっと前ならあんた、何かあたしに注文をしてもらえれば、こう、おつくりしてお出しできたんじやが。ああそうだ、あれがあった。ホレ、見てみんさい。どうだい。いい生地だろう。丈夫で、何より色がいい。どうだい、服にしてもよし、手提げを作ってもよし。え？ カーテンみたいに見える？ ああ、まあそういう使い方もあるな。

はい。ごほうび。

え？ いやいや遠慮なんかいらん。持ってってくれ。どうせうちは年寄りだけなんだから。何。いらぬ。遠慮深い人じゃな。じゃあこれは。ほれ、触ってみい。この飛び出したところ。いっぱいあるつぶつぶしたところ。ほれ押してみるがいい。ぷにぷにしておろう？ 手になじんで手頃な大きさじゃろう？ うちではツボ押しに使っておる。悪くないぞ。これをやろう。

はい。ごほうび。

何？ いらぬ？ なかなかモダンで気に入っておるんだがな。ツボ押しじゃなくてリモコンに見える？ リモコン？ まあ若い人がそう言うんならそういうこともあるかもしれんが。むう。せっかく来なすったのに、手ぶらで帰してしまっちゃあなあ。おおそうじゃ。あれがあったあれがあった。ほれ、庭先にな、まあちょっとした庭の飾りなんじやが、庭石にな、ああいうしつらえをしておる。まっつぐで、四角くてなかなか珍しかろう。あれをやろう。

はい。ごほうび。

なに。大きすぎる。そりゃあそうじゃ。もっともじゃ。持って帰るわけにはいかんのう。まったくわしとしたことが。え？ 駅のホームみたいだって？ いやあそういう難しいことを言われてもわしには何のことかさっぱりじゃがのう。そうか。じゃあ荷物にならんもの。そうじゃ！ あんたが持って帰らずとも、ほれ自分で勝手に歩いていく、というのはどうじゃ。この人なんかは。ああ。鈴木さんっていう人なんじやが。ええ人じゃよ。わしなんか日に3度くらいは眺めておる。この人をやろう。

はい。ごほうび。

これもいらん？ それはまたどうしたわけじゃ。連れて帰るわけにいかん？ どうして。家が狭い。はあ。都会は大変じゃのう。そうかい。困ったの。迷惑なモノを渡しても仕方がないしのう。わかった。それじゃあペットにぴったりな。なに。「ウツボはいらない」。そうか。どうしてウツボだとわかった？ ああ。そうかいそうかい。気がつきなすったか。次はご不在連絡表だろうって？ ああ。正解じゃ。うん。まあ確かに人から貰ったものを横流しにするようなのはけしからんな。これはわしが間違っておった。

しかしなあ。数えたらもう、三百何十もいただきものをしてしまっただのう。せっせとお返しをしとるんじやがなかなか間に合わんわい。こうしてはるばる来てくださった方にも、ろくなおもてなしもできんでなあ。まあごたごたした工房じゃが、わしがつくったものがごろごろしてるで、良かったら見ていっておくんない。そうそう。何とか言うカクテルがあったはずじゃ。いやいや悪い夢なんぞ見ない。たしかそう、ハイカラな名前の、そうそうレセプションたらしいカクテルじゃ。あれはうまいから、まず飲んでいってみてくれ。

(「ごほうび」 ordered by kyouko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるのですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験

済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上げてまいりましょう。

はい。ごほうび。

<http://p.booklog.jp/book/35035>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35035>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35035>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.